

編 集 後 記

本号には原著一編，臨床経験一編，研究速報一編及び症例報告16編が掲載されている。原著が少ないが原著の投稿がない訳でなく，残念ながら査読の段階で採用され得ない原著論文をしばしば経験する。今回の豊橋市民病院外科の柴田先生の原著は，34例の大腸脂肪腫をまとめた臨床研究である。このように外科医として各病院の医師たちの判断で日頃行っている臨床経験症例をまとめて，その問題点を抽出して第三者である機関の雑誌に投稿してその主張する所の判断を仰ぐ姿勢はいわゆる Academic Surgeon の姿勢であり，かつすべての臨床外科医師が常に持ち続けねばならない姿勢であろうと考える。毎日行っている自分たちの診療内容を常に再検討していく姿勢は，外科医自身が自分を磨き上げる上でも極めて大切な過程であり，このようなことを全くせずに一人よがり自分たちの診療内容に自信過剰な姿勢，あるいは排他的な他の批判を受け入れないような姿勢は決して持つてはいけないことであろう。教室においても若い入局者にこの事を絶えず言っているが，真にこの意味を理解してもらうには，教室内外の彼らの多くの先輩たちがその共通の価値観を持った上で日常臨床を行って，自分たちの診る患者さんに出来る限りのベストの診療を絶えず提供しようと願い努力する姿勢を持つていくことが最も大切であろう。そのような意味で本雑誌に投稿させるよう指導されている先輩医師の方々の熱意には改めて御礼申し上げたい。

(宮崎 勝)